

## 八王子花街における伝統的ホスピタリティの実践と持続可能な観光開発

### 文化的真正性と地域ウェルビーイングの視点から

尾川 佳子  
桜美林大学

**要約:** 本研究は、日本遺産「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」に認定された八王子市中町の花街において、芸者が体現する伝統的ホスピタリティが、地域の持続可能な観光開発とウェルビーイング向上にどのように寄与しているかを検討するものである。絹交易の歴史を背景に育まれた接遇文化は、現代の観光ニーズに柔軟に対応しながらも、文化的真正性を保ち続けている。芸者は単なる観光資源ではなく、文化実践者として職業的主体性を発揮し、地域コミュニティとの協働を通じて文化保全と経済活性化の両立を実現している。本研究は、八王子花街の事例を通じて、地方都市における文化観光の可能性と課題を明らかにし、持続可能な観光モデルの構築に向けた提言を行う。なお本報告は、八王子芸者街に関する予備調査に基づいており、公社のデータ協力を得た限定的な 来訪者統計の分析と文献レビューを中心としている。

**キーワード:** 芸者、文化保全、持続可能な観光、地域活性化、日本のホスピタリティ

### 1. はじめに

#### (1) 研究の背景と目的

##### ① 研究の背景

日本の花街文化は、かつて都市の文化的中枢として機能していたが、都市化や娯楽の多様化により急速に衰退した。とりわけ、接待文化の変化や人口動態の影響により、芸者という職業は縮小の一途をたどってきた。しかし近年、文化庁が創設した「日本遺産」制度(2015年～)を契機に、地域の歴史や文化を物語として再構成し、文化保全と観光振興を統合的に進める動きが活発化している。

八王子市は2018年、「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」として日本遺産に認定され、絹交易の歴史とともに芸者文化が再評価される契機となった。中町の黒堀通りを中心とする芸者街は、商人文化に根ざした親密で実用的な接遇スタイルを発展させてきた地域であり、京都や金沢の花街とは異なる文化的特性を有している。

##### ② 研究の意義

本研究は、観光研究・ホスピタリティ研究・文化資産マネジメントの交差領域に位置づけられる。特に芸者による接遇は、日本独自の高文脈文化サービスであり、標準化されたグローバルなホスピタリティモデルとは異なる。文化的真正性を維持しながら、地域資源としての芸者文化を観光に統合する方法を探ることは、理論的にも実践的にも意義深い。

また、芸者は単なる観光対象ではなく、伝統文化の担い手として職業的主体性を発揮する存在である。この視点は、文化保全と経済開発が対立的ではなく、相互に補完し得ることを示唆しており、持続可能な観光開発の新たなモデル構築に貢献する。

##### ③ 研究の目的

本研究は、八王子芸者街における伝統的ホスピタリティが、持続可能な観光開発を通じて地域活性化にどのように貢献しているかを明らかにする。特に、以下の三点に焦点を当てる：

1. 芸者の接遇文化(ホスピタリティ)が文化的真正性を維持しながら観光に統合されるプロセス
2. 芸者の職業的主体性が地域文化の継承と観光開発に果たす役割
3. 芸者街と地域コミュニティの協働によるウェルビーイング向上と経済循環の構築

### 2. 文献レビュー

#### (1) 芸者文化と職業的主体性

芸者は、単なる伝統芸能の担い手ではなく、文化的実践者としての職業的主体性を有する存在である。宇沢(2011)は、戦前・戦後の芸者を「職業人」として捉え、置屋・料亭・顧客との関係性を含めた花柳界の構造を多角的に分析した。芸者の芸には「お座敷で売る芸」と「芸術として極める芸」があり、両者のバランスが職業的誇りと経済的持続性を支えている。特に、芸の継承は師弟関係や芸

者同士のネットワークを通じて行われ、地域を超えた文化的連携が形成されている。八王子芸者街においても、釜石の芸者との交流を通じた芸の継承事例が報告されており、地域間の連携による文化保存の可能性が示唆されている。

## (2) 花街の事業システムとホスピタリティ

西尾 (2007) は、京都と東京の花街を比較し、京都ではお茶屋を中心とした分業構造とインセンティブ設計が機能していることを指摘した。お茶屋の「お母さん」が顧客情報を蓄積し、芸舞妓・料理屋・呉服屋などの専門事業者をコーディネートすることで、高付加価値のホスピタリティが提供される。この事業システムは、顧客との関係を重視し、継続的なサービス品質の維持と革新を可能にしている。東京の花街では、料亭が窓口となる構造が主流であり、芸者の活動範囲が限定される傾向がある。八王子芸者街は、京都型の柔軟な分業構造に近く、地域との協働によって芸者の活動領域が拡張されている点特徴的である。

## (3) 花街建築と景観保全

岡崎 (2015) の科研費報告では、全国の花街を対象に建築・景観・市民活動の実態が調査されている。八王子中町では、黒塀・石畳・柳が花街景観の重要要素として抽出され、これらの整備が地域の文化的アイデンティティを形成している。また、桑都テラスのような現代的文化施設との統合により、伝統的景観と現代的観光ニーズの両立が図られている。花街建築の保存は、単なる物理的保全ではなく、文化的実践の場としての機能を維持することが重要であり、八王子では芸者による「お座敷外活動」がその一例となっている。

## (4) 地域文化の創造性とまちづくり

川副 (2011) は、神楽坂地域における花柳界の再評価と地域住民との協働が、文化的創造性と地域アイデンティティの再構築につながった事例を提示している。花柳界が地域資源として認識されることで、まちづくり活動への参加が促進され、商店街・NPO・芸者の三者が連携する新たな文化活動が展開された。八王子においても、黒塀通り商店街振興組合と芸者街の協働によるイベント開催や育成支援プログラムが進められており、地域文化の創造性が実践的に発揮されている。

## 3. 研究方法

### (1) 研究の位置づけ

本研究は、八王子芸者街に関する予備調査の報告である。文献レビューを主軸としながら、2024年3月～10月のフィールド観察と、一般財団法人八王子市まちづくり公社から協力を得た来訪者統計のデータ分析を補助的に活用している。フィールドワークの実施にあたって

は、公社の協力のもと、公開イベント参加者の聞き取りと来訪者数統計の提供を受けた。本調査では、より大規模かつ継続的なインタビュー調査と参与観察の実施を予定しており、本報告の知見をもとに、今後の研究設計を行う予定である。

## (2) 研究アプローチ

本研究は、八王子芸者街における伝統的ホスピタリティの実践が、持続可能な観光開発と地域ウェルビーイングにどのように寄与しているかを明らかにするため、質的研究アプローチを採用した。特に、文化的真正性・職業的主体性・地域統合の三要素に焦点を当て、文献分析・フィールド観察・比較分析を組み合わせた三角測量法により、信頼性と妥当性の高い分析を目指した。

## (3) データ収集方法

### ① 文献分析

以下の実在文献を中心に、芸者文化・花街の事業構造・地域景観・文化継承に関する理論的枠組みを整理した：

- ・ 西尾 (2007) 『京都花街と東京花街の比較』：花街の事業システムと分業構造
- ・ 宇沢 (2011) 『職業人としての芸者たち』：芸の継承と職業的アイデンティティ
- ・ 岡崎 (2015) 科研費報告書：花街建築と景観保全、八王子中町の黒塀整備
- ・ 川副 (2011) 『神楽坂地域の文化的創造性』：花柳界と地域まちづくりの連携

これらの文献は、八王子芸者街の実践を理論的に位置づける上で重要な参照枠となった。

### ② フィールド観察

2024年3月～10月にかけて、八王子中町の黒塀通りおよび桑都テラスにて非参与型観察を実施した。観察対象は以下の通り：

- ・ 芸者による公開稽古・文化体験プログラムの実施状況
- ・ 桑都テラスの空間構成と来訪者の反応
- ・ 黒塀通りの景観要素 (石畳・柳・シャッターアート)
- ・ 商店街との連携イベント (八王子祭り等)

観察記録は、写真・メモ・訪問者数統計 (八王子市まちづくり公社提供) をもとに整理した。

図表1

桑都テラス		八王子芸者 公開稽古の実施による集客効果			2024/11/19
年 月	実施日	① 公開稽古 11~14時 (人)	② その月の 平日平均 11~14時 (人)	①/② %	
2024年	3月	492	283.2	174%	
	3月16日(土)				
	3月20日(水)	632	283.2	223%	
	4月	387	270.5	143%	
	4月20日(土)				
	5月	587	333.4	176%	
	5月18日(土)				
	6月	527	242.4	217%	
	6月15日(土)				
	7月	275	142.8	193%	
	7月20日(土)				
	8月	なし			
	9月	108	89.6	121%	
	9月20日(金)				
	10月	458	128.4	357%	
	10月19日(土)				

(出典：一般財団法人 八王子市まちづくり公社 (非公開))

### ③ 比較分析

八王子芸者街と他地域(京都祇園、金沢ひがし茶屋街、神楽坂花柳界)との比較を行った。比較項目は以下の通り：

- ・ 組織構造(置屋・検番・料亭・お茶屋の関係性)
- ・ 芸者の育成体制と職業的支援制度
- ・ 地域との連携度(商店街・行政・NPOとの協働)
- ・ 観光統合の手法(体験型プログラム、景観整備、プロモーション)

比較分析には、西尾(2007)の事業システム論と岡崎(2015)の景観評価枠組みを活用した。

### (4) 分析枠組み

本研究では、以下の三次元からデータを分析した：

1. **文化的持続可能性**：芸者文化の継承方法、真正性の保持、地域文化との統合
2. **観光統合パターン**：伝統芸能の観光資源化、体験プログラムの設計、訪問者の反応
3. **ステークホルダー関係性**：芸者・商店街・行政・観光事業者の協働構造と役割分担

この枠組みにより、八王子芸者街の実践が持続可能な観光モデルとしてどのように機能しているかを体系的に検討した。

### (5) 妥当性と信頼性

複数の情報源(文献・観察・統計)を用いた三角測量法により、分析結果の信頼性を確保した。また、既存の理論枠組みを踏襲しつつ、八王子独自の実践を照らし合わせることで、妥当性の高い解釈を導出した。

### (6) 倫理的配慮

本研究では、芸者および関係者のプライバシーと職業

的尊厳を尊重し、観察は公開イベントに限定した。また、文化的配慮として、伝統芸能の撮影・記録に関しては事前に許可を得た上で実施した。

## 4. 八王子芸者街の現状と分析

### (1) 歴史的背景と空間構成

八王子市中町の芸者街は、江戸・明治期に絹交易の中心地として栄えた歴史を背景に、商人文化に根ざした接客スタイルを発展させてきた。京都の宮廷的な花街とは異なり、八王子ではより親密(庶民的)で実用的なホスピタリティが重視されてきた。黒堀通りに代表される街並みは、石畳・柳・木造建築、そしてシャッターアートが調和し、地域の文化的アイデンティティを象徴する景観要素として機能している(岡崎, 2015)。

近年では、景観整備と文化資源の活用が進み、黒堀・石畳・柳の三要素を中心としたまちづくりが展開されている。これらの要素は、八王子芸者街の歴史的価値を視覚的に伝えると同時に、訪問者に対して文化的深みを提供する空間的装置となっている。

### (2) 桑都テラスと文化体験プログラム

2023年に開業した複合文化施設「桑都テラス」は、伝統芸能と現代的観光体験を融合する拠点として注目されている。施設内では、芸者による公開稽古や少人数制の体験プログラムが定期的に開催されており、訪問者との対話を通じて文化理解を促進している。

八王子花街における公開稽古イベントは、筆者が収集した来訪者数記録に基づくと、月平均で平日比160~180%の増加が見られ、特に土曜日開催時には300~600名規模の来訪が確認された(筆者作成資料より<sup>1)</sup>)。訪問者の滞在時間も伸びており、芸者街訪問後に周辺の飲食店や土産物店に立ち寄る傾向が強まっている。これにより、地域経済への波及効果が確認されている。

### (3) 芸者の職業的主体性と育成体制

宇沢(2011)が指摘するように、芸者は文化の担い手であると同時に、自らの職業的選択を行う主体でもある。八王子芸者街では、芸者が伝統芸能の習得において個々の興味や適性に応じて学び、独自の表現スタイルを開発している。また、地域イベントや教育活動への参加を通じて、文化継承者としての役割を自覚的に果たしている。職業的育成においては、置屋による指導体制と師匠との継続的な稽古が両立しており、芸者同士のネットワークも活発である。釜石花柳界との交流事例では、震災後に八王子芸者が現地を訪れ、芸の継承を申し出たことで、

<sup>1</sup> 八王子市まちづくり公社(2024)『桑都テラスの公開稽古に関する来訪者統計(非公開資料)』筆者集計に基づく

地域間の文化連携が実現した(宇沢, 2011)。このような実践は、芸者の主体性と文化的責任感が地域を超えて発揮される好例である。

#### (4) 地域商店街との連携と経済循環

黒堀通りがある八王子市中町商店街組合、八王子市中町まちづくり協議会との協働により、芸者街と商店街の連携が強化されている。共同イベントの開催や観光導線の設計を通じて、訪問者の回遊性が高まり、地域内での経済循環が形成されている。着物の仕立て、髪飾りの製作、伝統楽器の修理など、芸者文化に関連する職人技能も地域経済の一部として支えられている。

また、若手芸者の育成支援プログラムでは、地元企業や個人が資金的・精神的支援を行う仕組みが構築されており、文化継承が地域全体の責任として共有されている。このような協働構造は、文化保全と経済活性化の両立を可能にする持続可能なモデルとして評価される。

#### (5) 文化的ホスピタリティ体験の深化

桑都テラスでの体験プログラムに参加した訪問者への聴き取りでは、「日本文化、特に伝統的なホスピタリティについて新しい理解を得た」との声が多く聞かれた。また、「今後も日本文化を学びたい」「他の人に八王子の芸者文化を勧めたい」との回答も多く、文化的相互理解と尊重の萌芽がうかがえる。

こうした反応は、単なる満足度の向上を超え、文化的真正性に基づく体験が訪問者の内面的変容を促すことを示している。芸者との対話や稽古の観覧を通じて、訪問者は日本の伝統文化の奥行きに触れ、地域とのつながりを感じる機会を得ている。

このような「文化的ホスピタリティ体験の深化」は、観光を消費ではなく相互的な文化学習の場として再定義する動きの一環と位置づけられる。

### 5. 考察

#### (1) 文化的真正性と観光開発の両立

八王子芸者街の取り組みは、文化的真正性を保持しながら観光開発を進める好例である。桑都テラスでの少人数制体験プログラムや公開イベントは、訪問者との対話を重視し、芸者の芸や語りを通じて文化の深層に触れる機会を提供している。西尾(2007)が指摘するように、サービスの質は顧客との関係性によって支えられる。八王子では、芸者が単なる演者ではなく、伝統文化の語り手としても位置づけられており、観光体験の質を高める要因となっている。

また、芸者の活動が地域の歴史的景観(黒堀・石畳・柳)と不可分に結びついていることにより、観光化による脱文脈化のリスクが低減されている。岡崎(2015)の景観分析でも、物理的空間と文化的実践の統合が持続可能な観光の鍵であることが示されている。

#### (2) 芸者の職業的ウェルビーイング

芸者の職業的主体性は、文化継承とキャリア形成の両面において重要な役割を果たしている。宇沢(2011)は、芸者が自らの芸を磨き、後輩に伝える責任を担うことで、花柳界の持続性が保たれると述べている。八王子では、芸者が自律的に活動内容を選択し、地域イベントや教育活動に参加することで、職業的幸福度が高まっている。また、柔軟な組織構造により、芸者は個々のライフスタイルに応じた働き方が可能となっており、若手の参入や継続的な育成が促進されている。これは、京都の階層的構造とは異なる八王子独自の強みであり、職業的持続可能性の観点からも注目される。

#### (3) 地域福祉とコミュニティ統合

芸者街と商店街の協働は、地域イベントへの参画を通じて地域アイデンティティを強化し、住民のウェルビーイング向上に寄与している。八王子祭りや中町盆踊りなどの行事では、芸者が積極的に参加し、地域住民との交流が生まれている。川副(2011)が神楽坂の事例で示したように、花柳界が地域の象徴として再評価されることで、まちづくり活動への参加が促進される。

八王子でも、芸者文化が地域の誇りとして共有されることで、住民の帰属意識と文化的自信が高まり、地域福祉の向上につながっている。特に、若手芸者の育成支援に地域が関与する仕組みは、文化継承を地域全体の責任として位置づける点で先進的である。

#### (4) 文化的ホスピタリティ体験の意義

桑都テラスでの公開イベントは、訪問者と芸者の対話を通じて文化的学習が生じる仕組みを備えている。参加者の多くが「日本文化への新たな理解を得た」と回答しており、文化的共感と相互尊重が形成されていることが示唆される。

こうしたプロセスは、観光を通じた文化的ウェルビーイングの創出とも関連しており、単なる観光消費を超えて「共創的なホスピタリティ実践」として評価できる。西尾(2007)が述べるように、サービスの価値は消費者との関係性の中で創出される。八王子では、芸者との対話を通じて、訪問者が文化の担い手としての芸者の存在を理解し、地域文化との共感的なつながりを得ている。

### 6. 結論と提言

本研究は、八王子市中町の花街における伝統的ホスピタリティの実践に関する予備調査として、芸者文化が持続可能な観光開発と地域ウェルビーイングにどのように貢献しているか、質的文獻レビューと限定的なフィールド観察を通じて検討を行った。その結果、芸者文化は単なる観光資源ではなく、地域の歴史・景観・職人技能・コミュニティ活動と密接に結びついた文化的実践であることが確認された。

特に、絹交易の歴史を背景に形成された八王子芸者街の接遇スタイルは、京都や金沢の花街とは異なる柔軟性と地域密着性を備えており、現代の観光ニーズに対応しながらも文化的真正性を保持している。桑都テラスのような現代的文化施設との統合により、伝統芸能が新しい形で体験され、訪問者の文化理解と満足度が高まっている点は、持続可能な観光モデルとしての可能性を示している。

また、芸者の職業的主体性が尊重されていることにより、芸の継承とキャリア形成が両立し、若手芸者の育成と地域との協働が促進されている。地元事業者との連携を基盤に、地域住民・行政・大学等による産官学連携が実践されており、こうした多主体による協働体制のもとで経済的循環が地域内に形成されている。これにより、文化保全と経済活性化の両立が実現されている点は、持続可能な地域モデルとして注目に値する。さらに、地域住民との交流を通じて、芸者文化が地域の誇りとして再認識され、住民のウェルビーイング向上にも寄与している。これらの成果は、他の地方都市における文化観光施策にも応用可能と考える。例えば、金沢の茶屋街や神楽坂の花柳界においても、少人数制・対話型の体験プログラムや地域資源の再評価を通じた観光設計は有効であり、八王子モデルはその一つの指針となり得る。また、芸者や伝統芸能の担い手に対する育成支援を地域全体で担う仕組みは、文化継承の持続性を高める上で有益である。政策的には、文化庁や観光庁による柔軟な補助制度の設計、学校教育との連携による継承モデルの構築、花柳界同士の交流を支えるネットワーク形成などが求められる。これらの支援が実現されれば、地域文化の担い手が安心して活動を継続できる環境が整い、観光と文化の共存がより持続的なものとなるだろう。

今後の研究課題としては、季節的変動や国際観光客の反応に関する実証的調査、デジタル技術との融合（オンライン体験やアーカイブ化）、他地域との比較研究によるモデルの汎用性検証などが挙げられる。また、芸者の職業的ウェルビーイングに関する心理的・社会的指標の開発も、文化実践者の持続可能性を測る上で重要な視点となる。

さらに、芸者に対する社会的認識の課題も今後の検討事項として重要である。芸者文化は、かつての接待・遊興のイメージにより誤解されることが少なくないが、現在では地域文化の担い手として、教育・観光・福祉の分野において積極的に貢献している。八王子花街の事例に見られるように、芸者は地域の歴史と文化を語り継ぎ、住民や訪問者との対話を通じて文化的理解を促進する存在である。

しかしながら、こうした実践にもかかわらず、芸者に対

する偏見や誤認識は依然として根強く、文化的真正性の理解を妨げる要因となっている。今後は、芸者文化の現代的意義を広く発信し、教育・メディア・観光案内等を通じて正確な情報提供を行うことが求められる。芸者自身の語りや地域との協働を通じて、職業的尊厳と文化的価値を再認識する機会を創出することが、持続可能な文化観光の基盤となる。

なお筆者自身も、芸者文化の現代的意義と地域貢献について、海外の学会において継続的に発表を行っている。芸者によるホスピタリティ実践が、地域の文化資源としてどのように再構成され、観光・教育・福祉の分野に貢献しているかを国際的な文脈で紹介することで、日本の伝統文化が持つ普遍的価値と、地域主導型の文化観光モデルの可能性を広く共有している。

以上のように、八王子芸者街の事例は、伝統文化の担い手としての芸者の姿を丁寧に描きながら、文化保全と観光開発の両立という現代的課題に対して、理論と実践の架け橋を築くものである。地域の歴史と人々の営みが織りなす「桑都物語」は、今後も多様な形で語り継がれ、新たな文化創造の源泉となることが期待される。

## 謝辞

本論文が日本ホスピタリティ観光学会の学術論文第一号に掲載されることを大変うれしく思います。研究の遂行にあたり、島川学会長ならびに一般財団法人八王子市まちづくり公社、八王子市中町地区まちづくり協議会、八王子芸妓の皆様からご支援とご協力を賜りました。ここに心より感謝申し上げます。

## 【参考文献】

- 宇沢美子 (2011) 『職業人としての芸者たち：戦前・戦後の日本を支えた花柳界の文化』 三菱財団研究助成・事業成果報告書 Vol. 2011. pp. 1-7
- 西尾久美子 (2007) 『おもてなしの事業システム：京都花街と東京花街の比較』 京都女子大学現代社会研究 第1号, pp. 37-54.
- 岡崎篤行 (2015) 『伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的実態と地域特性』 科学研究費助成事業（基盤研究B）研究成果報告書（課題番号：24360246）。
- 久保有朋・宮島悠夏・岡崎篤行 (2018) 『花街振興を目的とした一般開放イベント並びに花街建築の公開活用に関する実態』 日本建築学会技術報告集 Vol. 24 No. 57, pp. 833-838.
- 平岩英治・葦名理恵 (2022) 『観光における文化資源の構築と蓄積に関する研究：金沢「浅の川園遊会館」が支援する芸妓のケーススタディ』 日本マーケティング学会カンファレンス・プロシーディングス Vol. 13. pp. 111-116
- 川副早央里 (2011) 『地域の文化的創造性：神楽坂地域を事例

として』関東都市学会年報 第13号, pp. 94-98

八王子市文化振興課 (2023) 『八王子歴史文化基本構想 (第3章)』八王子市公式サイト.

八王子市まちづくり公社 (2024) 非公開統計資料 (筆者集計)

八王子市観光課 (2023) 『八王子芸者衆と黒堀通りの紹介』八王子市公式サイト.

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kankobunka/001/006/p003402.html> (最終閲覧 2025. 10. 18)

桑都テラス Soto Terrace (2023) 『文化体験プログラム紹介』八王子市まちづくり公社

<https://sototerrace.com/> (最終閲覧 2025. 10. 18)

八王子黒堀に親しむ会 (2023) 『芸者と置屋の紹介』公式サイト.

<https://hachioji-kurobei.com/geisha/>

(最終閲覧 2025. 10. 18)

Japan Heritage Portal (文化庁) (2023) 『靈気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～』日本遺産公式サイト.

<https://www.japan.travel/japan-heritage/>

(最終閲覧 2025. 10. 18)